



もっとスペースを！
My Petition for More
Space(1974)/ジョン・
ハーシー(安田均訳)/
早川書房(7/31刊・
¥1,200)

長い長い列が続く。それは、近未来、人口爆発を起こしたアメリカで、請願を求める人の列である。すべてに許可が必要とされる世界で、主人公は一つのおぼろげな要求を秘めて列に並ぶ。『もっとスペースを！』それが、標題である。／“距離を置く”という言葉がある。少なくとも、手を伸ばしてとどく範囲に、他人がいないことが、ヒトの最小限の距離だともいう。距離の近さが、心の近さを意味するわけではない。これは象徴的な意味に問い直すこともできよう。／あの、『ヒロシマ』のハーシーがSFを、と驚かれる方も、おられるかもしれない。しかし、ずいぶん昔に二見書房から出た、長編『歩くには遠すぎる』が、ファウスト伝説の形をとりながら、ファンタジイではなかったように、本書も本質的にはSFとは違う。／ありふれた“暗黒の明日”／列の中で生まれたさまざまな感情は、列から(情況から)離れることで消え去る。これは、未来ではなく、現代なのだ。やはり、ハーシーの視点は、SF流のダイナミズムを離れ、きわめてスタティックだった。／しかし、この本、ちよつとスペースが余りすぎているのではないか。(俊)